

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話 (03) 3751-7181
https://nichiren-monka.org

令和5年10月13日
第68号

法華宗(本門流)管長就任挨拶

法華宗(本門流)管長
大本山鷲山寺第百二世貫首

佐藤日賢



この度、「法華宗(本門流)」

の第一四一代管長に本年八月十三日をもちまして就任いたしました。

自山大本山鷲山寺は、千葉県茂原市に所在し、日蓮大聖人が小松原法難の後、当地に於いて一夏九旬の間、天下泰平の祈願をされた聖地です。建治三年に建立、開基日蓮大聖人、開山日弁大正師と仰ぐ道場でございます。

八〇〇年・当山開創七五〇年の聖年を迎えるに当たり、悲願であった本堂再建を果たし、令和四年六月十一日落慶法要を含む大法要を奉修いたしました。

さて、当門下連合会は発足以来六十年を経過し宗祖の御生涯において忘れてはならない節目の聖年には、様々な企画を推進してきました。近年に於いては、令和三年は日蓮大聖人がお生まれになられたから八〇〇年の聖年。新型コロナウイルスによって様々な障害がありながらも、鳩摩羅

法華宗(陣門流)管長就任挨拶

法華宗(陣門流)管長
総本山本成寺第九世貫首

鈴木日慧



このたび図らずも宗内各位

のご推戴を受け、総本山本成寺第九世貫首並びに法華宗(陣門流)管長の法灯を継承させていただきますこととなりました鈴木日慧でございます。

さて昨今の世相を鑑みますに、パソコン、スマホ、ドローン等、通信技術の発達は取り敢えず日進月歩の勢いですが、現代人がこれらの道具を用いるべき方向づけに迷い、戦争・人殺し・社会混乱等の負の道具と化し、末法混沌の世相となり下っております。

大聖人は「今、末法に入りて本門の弘まらせ給ふべし」

とて、最悪劣悪なる末法時代こそ最上の仏法たる「本門」の題目によってのみ救われると論されました。本年は雪中の佐渡に観心本尊抄並びに始頭大曼荼羅御本尊が顕発されて七五〇年の聖年であります。正に雪中劣悪の佐渡に、末法救済の「本門」及びその弘通者「本化」大聖人の出現そしてその弘通に相まみえんとする聖年であります。私共は今一度、宗祖大聖人に立帰って、私曲を捨てて行学二道を持つていく処に、本仏積尊並に四大菩薩衆のお取計らいが示されるものと信ずる次第であります。

観心本尊抄述作七百五十年 慶讃記念佐渡結集開催さる

日蓮聖人門下連合会では、令和五年九月十三日、十四日の二日間、新潟県佐渡市において観心本尊抄述作七百五十年慶讃記念法要他、関連事業を行い総勢約四百四十名が一谷妙照寺に集い、報恩のお題目を捧げた。

十三日(水)午後三時三十分、参加者は国際佐渡観光ホテル八幡館に集合。はじめに立正大学仏教学部准教授 本間俊文師(佐渡・世尊寺修徒)を講師に「佐渡における日蓮聖人の法華経布教―曼荼羅本尊図顕と授与―」というテーマにて講演が開かれた。(本間師講演要旨は次頁)本間師は、佐渡における日蓮聖人の布教法として曼荼羅本尊を授与していたことについて言及され、その曼荼羅本尊の形態についても詳しく説明された。

午後六時三十分からはホテル内にて懇親会が開催され、懇親の宴を楽しんだ。各派宗務総長(門連常任理事)のご挨拶や乾杯の後、来賓として日蓮宗霊跡本山根本寺竹中智英現下より歓迎の御挨拶を頂戴した。また、佐渡の伝統芸能であり、無病息災を祈る「鬼太鼓」の演舞が披露され迫力ある太鼓に、大いに盛り上がりを見せた。新型コロナウイルスの厄が一段落し、参加者の中には久しぶりに再会する姿もあり、懇親を深めるひとときとなった。

翌十四日(木)午前十時、妙照寺において観心本尊抄述作七百五十年慶讃記念法要が、田中恵紳理事長(日蓮宗宗務総長)・大導師のもと、副導師に法華宗(本門流)・金井孝顕宗務総長、顕本法華宗・河野時巧宗務総長、法華宗(陣門流)・西山英仁宗務総長、法華宗(真門流)・堀内浩善宗務総長、本門法華宗・香川日憲宗務総長、日蓮宗・鶏内泰寛宗務総長室長により厳修された。田中理事長は慶讃文で「前途の難難を想わしむと雖も、経意を忘失せず仏祖の宿縁に酬えて一乗深甚の法燈を伝え、異体同心の祖訓を体し、一天四海 皆帰妙法の祖願を成就せん」と誓いを新たにされた。参加者一同、七百五十年の時を超えて日蓮聖人佐渡ご配流に思いを馳せ、異体同心に報恩のお題目をお唱えして法要は終了した。法要後、田中理事長より参加者へ御礼の挨拶が述べられ、併せて妙照寺鈴木浄元貫首へ参加者一同からの奉納金が贈呈された。鈴木貫首は「門下連合会の各宗派が佐渡に結集され、法要を営んでいただいたことは大変意義深いこと。当山は復興・再建に向け、来年度鎮式を行う予定であり、令和八年の落慶を目処に精進して参ります。」と謝辞を述べられた。

從地ゆじゆつ

◆南無妙法蓮華經 ◆日本山妙法寺 藤井日達山主(一八八五―一九八五)の法話語録を紹介させていただきます。

◆「文明とは、電灯のつくことでもない。飛行機のあることでもない。原子爆弾を製造することでもない。文明とは、人を殺さぬことであり、物を壊さぬことであり、戦争をしないことであり、相互に親しむことであり、相互に敬うことである。」

◆「人類の生きていく道は、平和に暮らすこと、争いをしないこと、これだけを仏様の教えによって習い極めて、現在の憲法を宗教的信念によってたもたねばなりません。南無妙法蓮華經と唱えてこの憲法を守ります。」

◆「世界の人が、日本国は核兵器を持たない、核兵器を使わない、と認めた時に、日本国に核兵器の戦争を起して来る国はありません。平和の心を養うには、人を疑ったり、攻撃する侵略する心を止めねばいけません。これが『平和憲法の心』でありましょう。これで守られます。日本国は、よその国と戦争しなければ守られる。戦争すれば滅ぼされる。それで平和を作るために、皆の願いが、まず宝塔様となり、菩薩様となって現れて来ます。」

◆私たち日本山妙法寺一門は、藤井日達山主の用意に於いて、立正安国・世界平和実現のため、これからも団扇太鼓を撃って、お題目を唱え、但行礼拝いたし、平和行進をつとめさせていただきます。

合掌
(日本山妙法寺僧侶 武田隆雄)

【佐渡結集講演要旨】 佐渡における日蓮聖人の法華経布教 — 曼荼羅本尊図頭と授与 —

立正大学仏教学部准教授 本間俊文

佐渡期の概況

日蓮聖人の佐渡期は、文永八年（一二七二）十月二十八日《五十歳》から文永十一年（一二七四）三月十四日《五十三歳》までの、約二年五ヶ月間です。文永八年九月十四日の龍口法難失敗を受けて佐渡流罪が決定し、同年十月二十八日に佐渡到着、塚原三味堂において流謫生活が始まりました。佐渡に配流された聖人は、生きて再び本土に帰還することは難しいという認識を持つ一方で、流謫中に幾人かの弟子達が聖人のもとを訪れて生活を支えていたことも窺えます。そして、聖人は佐渡において、文永九年（一二七二）二月の『開日抄』述作、文永十年（一二七三）四月二十五日の一谷での『如来滅後五百歳始観心本尊抄』述作、同年七月八日の佐渡始頭曼荼

羅本尊図頭など、法華教学の体系化とその表明という重要な事蹟を残しており、佐渡期が信仰面において重要な転機となったことは言うまでもありません。

「法敵」から「師」へ…弟子檀越の獲得

聖人にとって佐渡は「配流の地」であり、決して最初から布教地であったわけではありません。佐渡島民にとつても聖人は、当初「罪人日蓮」という見方のほうが一般的であったことでしょう。しかし、文永九年一月の塚原問答における聖人の勝利が佐渡島民における評価上昇のきっかけとなり、聖人に対する見方も次第に変化していきました。そして、阿仏房・千日尼夫妻、国府入道・是日尼夫妻、一谷入道など、佐渡島民の中には聖人に帰依する者も現

れてきました。このように、聖人に対する佐渡島民の見方が「罪人日蓮」から「師日蓮」へと好転すると共に、聖人もまた佐渡島民に対して愛着を抱くようになっていくのです。

佐渡期の日蓮遺文数

ところで、日蓮遺文を通過すると、佐渡期の遺文が多く確認できます。その数は、曼荼羅本尊が二一、真蹟遺文が二四、直弟写本で伝わる遺文が三、その他の遺文が二三の、計七一点です（推定含む）。一年平均の遺文数を算出すると一七・七五点で、この数値は身延期（四四・五六点）に比べて高くなっています。佐渡期の遺文が多く確認できることの要因として、一定期間同所に「定住」した生活環境と、生きて再び本土に帰ることは困難という聖

人自身の「晩年」意識が想定でき、これらが遺文の執筆を促進させたものと考えられます。

曼荼羅本尊の図頭と授与…法華経布教の実践

聖人の佐渡期と言えば『開日抄』『観心本尊抄』執筆の事蹟が特に有名ですが、布教の実践に関わる事柄として、「曼荼羅本尊（文字曼荼羅）を図頭し、弟子檀越に授与する」という布教スタイルを樹立したこと」は特に重要な意義を有しています。周知の通り、聖人の曼荼羅本尊の初見は、文永八年（一二七二）十月九日付の通称「楊枝本尊」（京都立本寺蔵）です。これに続き、聖人の曼荼羅本尊は佐渡で図頭した「佐渡百幅」や「佐渡始頭曼荼羅本尊」へと展開していきま

す。ただし、形態の観点から言えば、文字曼荼羅を書き遺したのは聖人が最初ではなく、先行事例がいくつか確認できます。それは、明恵の「三宝札名字本尊」と親鸞の「六字・八字・十字名号」であり、紙に祈りの対象を文字で書くという点では共通しています。その一方で、聖人の曼荼羅本尊は、「本尊」として弟子檀越に広く授与するという用途と、徐々に諸尊の名号を書き連ねたマンドラ形式へと展開していく点において、明恵や親鸞のそれと異なっていると

言えます。上記の点を踏まえ、聖人が佐渡で図頭した曼荼羅本尊（佐渡百幅と佐渡始頭曼荼羅本尊）の特徴について、それぞれ見ていきたいと思います。

まず、佐渡百幅は聖人が佐渡で図頭した最初の形態のもので、主に釈迦・多宝と梵字の不動・愛染の勧請、聖人の署名花押というシンプルな構成のもので、紙の小型のものが多く、また「南無」の二字が大きいなどの特徴も見られます。これらは、聖人が師檀越関係の証として弟子檀越に授与し、弟子檀越は守護札として日常的に携帯したものと想定されます。そのような面から、佐渡百幅は「守護の曼荼羅本尊」とも言うことができます。聖人は『一谷入道御書』に「日蓮が弟子となるとも、日蓮が判子を持たざらん者をば御用あるべからず」（『定遺』九九六頁）と述べていますが、これは聖人における曼荼羅本尊授与の意義を物語っているものと思われま

す。こうして佐渡始頭曼荼羅本尊が図頭されたことにより、聖人の曼荼羅本尊は「守護」と「礼拝」という二つの宗教的機能を備えることになりました。曼荼羅本尊という媒体を通じて、法華経・聖人・弟子檀越が宗教的に一本の線でつながり、法華経信仰の形が確立されたのです。そのような点から佐渡期は、その後の教団における曼荼羅本尊図頭・授与による法華経布教のあり方

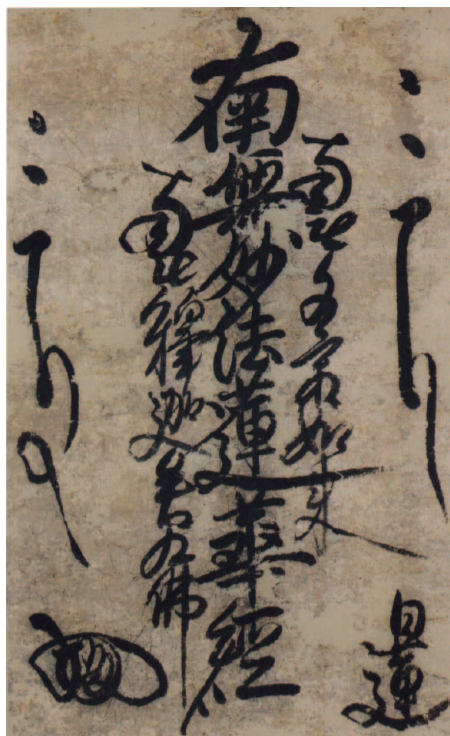
のそれと異なっていると

言えます。上記の点を踏まえ、聖人が佐渡で図頭した曼荼羅本尊（佐渡百幅と佐渡始頭曼荼羅本尊）の特徴について、それぞれ見ていきたいと思います。

まず、佐渡百幅は聖人が佐渡で図頭した最初の形態のもので、主に釈迦・多宝と梵字の不動・愛染の勧請、聖人の署名花押というシンプルな構成のもので、紙の小型のものが多く、また「南無」の二字が大きいなどの特徴も見られます。これらは、聖人が師檀越関係の証として弟子檀越に授与し、弟子檀越は守護札として日常的に携帯したものと想定されます。そのような面から、佐渡百幅は「守護の曼荼羅本尊」とも言うことができます。聖人は『一谷入道御書』に「日蓮が弟子となるとも、日蓮が判子を持たざらん者をば御用あるべからず」（『定遺』九九六頁）と述べていますが、これは聖人における曼荼羅本尊授与の意義を物語っているものと思われま

す。こうして佐渡始頭曼荼羅本尊が図頭されたことにより、聖人の曼荼羅本尊は「守護」と「礼拝」という二つの宗教的機能を備えることになりました。曼荼羅本尊という媒体を通じて、法華経・聖人・弟子檀越が宗教的に一本の線でつながり、法華経信仰の形が確立されたのです。そのような点から佐渡期は、その後の教団における曼荼羅本尊図頭・授与による法華経布教のあり方

のそれと異なっていると



佐渡百幅（佐渡世尊寺蔵）

日蓮宗宗務院

管 長 菅野日彰 財務部長 山田光映
 宗務総長 田中恵紳 宗務総長室長 鶏内泰寛
 伝道局長 柳下俊明 現代宗教研究所長 赤堀正明
 総務局長 光岡潮慶 参 与 渡邊義生
 伝道部長 藤田尚哉 参 与 田中智海
 教務部長 川久保光隆 日蓮宗新聞社長 安芸栄祥
 総務部長 畑 栄明

〒146-8544 東京都大田区池上一-三二-一五
 電話 〇三(三七五)七一一
 FAX 〇三(三七五)七一八六
<https://www.nichiren.or.jp>

法華宗(本門流)宗務院

管 長 佐藤日賢
 宗務総長 金井孝顕
 教学部長 清水常光
 布教部長 三吉廣明
 総務部長 平田義生
 財務部長 久野晃秀
 企画部長 吉崎長生

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町二一九-一
 電話 〇三(五六一四)三〇五五
 FAX 〇三(五六一四)三〇五六
<http://www.hokkeshu.or.jp>

顕本法華宗宗務院

管 長 大川日仰
 宗務総長 河野時巧
 宗務次長 小松正学
 財務部長 吉田諦規
 布教部長 小川正展
 庶務部長 金坂正道
 社会部長 森田修應
 教務部長 二宮無尽

〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町九一
 電話 〇七五(七九二)七一一
 FAX 〇七五(七九二)七二六七

法華宗(陣門流)宗務院

管 長 鈴木日慧
 宗務総長 西山英成
 総務部長 牧野秀成
 企画部長 金原孝宜
 財務部長 西山聡達
 教学部長 布施義高
 教化部長 松吉慶憲
 宗務参事 田中隆寛
 宗務参事 田内孝照
 宗務参事 竹内敬雅

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨五-三五-一六
 電話 〇三(三九一八)七二九〇
 FAX 〇三(三五七六)〇一一一

本門佛立宗宗務本庁

宗務総長 新井日現
 宗務副総長 永江日盡
 宗務副総長 谷 信一
 教育局長 植田日事
 弘通局長 山内日得
 総務局長 藤本日唱
 広報局長 澤田日松
 財務局長 姫野正文
 奉賛局長 柴崎日布

〒602-8377 京都市上京区御前通一条上る東堅町一〇番地
 電話 〇七五(四六一)一六六代
 FAX 〇七五(四六四)五五九九

日蓮本宗宗務院

管 長 丹治日遠
 宗務総長 西尾弘道
 総務部長 住友公亮
 財務部長 柳下真敬
 教務部長 柳下真敬

〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
 電話 〇七五(七七二)三三九〇
 FAX 〇七五(七七二)五九一四
[HP honzanyoboji.or.jp](http://honzanyoboji.or.jp)

法華宗(真門流)宗務庁

管 長 上田日猷
 宗務総長 堀内浩善
 総務部長 坂本法保
 企画部長 峰尾泉栄
 教学部長 舟積法宏
 教化部長 水野智悠
 社会部長 堀 雅博
 財務部長 堀 雅博

〒602-8447 京都市上京区智慧光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
 電話 〇七五(四四一)五七六二
 FAX 〇七五(四四一)五六六六

本門法華宗宗務院

管 長 別所日山
 宗務総長 香川日憲
 宗務部長 増田日倫
 総務部長 吉村日彦
 財務部長 高邊晶啓
 教務部長 山下揮正
 庶務部長 松本真隆

〒602-8418 京都市上京区寺之内通大宮東人大本山妙蓮寺内
 電話 〇七五(四五二)三五二七
 FAX 〇七五(四五二)三五九七

宗教法人 国柱会

賽 主 田中壮谷
 理事長 松浦正
 理事 森山真治
 門連理事 藤本坦孝
 門連常任理事 的場春奈
 編集委員

〒132-0024 東京都江戸川区一之江六一一九-一八
 電話 〇三(三五六)七二二代
 FAX 〇三(三五六)九九八〇
<http://www.kokuchukai.or.jp>

日本山妙法寺大僧伽

首 座 今井行康
 責任役員 木津博充
 同 川岸行孝
 同 武田隆雄
 同 長濱行豊
 同 行徳行得

日本山妙法寺大僧伽事務局
 〒150-0045 東京都渋谷区神泉町八一七
 電話 〇三(三四六一)九三六三
 FAX 〇三(三四六一)九三六七

京都日蓮聖人門下連合会

会 長 上田日瑞
 副会長 桃井日英
 理事長 小田和幸
 副理事長 佐藤泰慎

京門連事務局
 〒606-8376 京都市左京区二条通川端東人大菊町九六
 頂妙寺布教会館内日蓮宗京都府第一宗務所内
 電話 〇七五(七六一)二四一一
 FAX 〇七五(七五二)九三三八

大阪日蓮聖人門下懇話会

理事長 伊藤信城 理事 高橋次郎
 副理事長 藤本経尚 理事 京藤白應
 理事・会計 松井英光 理事 森田進
 理事 門谷光瑞 理事 有本智成
 理事 吉村日彦 理事 山田玄精
 理事 木下真良 理事 下土井龍永

〒542-0012 大阪府大阪市中央区谷町九-一-二七
 妙法寺内
 電話 〇六(六七六一)七三三三
 FAX 〇六(六七六一)六六四九

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
令和五年 日蓮聖人御入山 七五〇年
身延山開創

法主 内野日総
総務 持田日勇

〒409-2593 山梨県南巨摩郡身延町身延三五六七
電話 〇五五六(六二)一〇一一
FAX 〇五五六(六二)一〇九四

日蓮宗大本山
池上本門寺

貫首 菅野日彰
執事長 木内隆志
役員一同

〒146-8576 東京都大田区池上一一一一一
電話 〇三(三七五二)一三三三一
FAX 〇三(三七五二)三三五〇

法華宗(本門流)大本山
本興寺

貫首 小西日遠
執事長 清水常光
役員一同

〒606-0862 兵庫県尼崎市開明町三一三
電話 〇六(六四一一)三三二一七
FAX 〇六(六四一一)二四三八

顕本法華宗総本山
妙満寺

貫首 大川日仰
総務 土持栄孝
執事 湯原正純
執事 足立幸謙

〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九二)七二七一
FAX 〇七五(七九二)七二六七

法華宗(陣門流)総本山
本成寺

貫首 鈴木日慧
寺務所員一同

〒955-0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六(三三)〇〇〇八
FAX 〇二五六(三三)〇〇五九

法華宗(真門流)総本山
本隆寺

貫主 上田日猷
執事長 永岡悠希
執事 笹木研吾
執事補 矢放啓亮
参与 本多信正

〒602-8447 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四二)五七六二
FAX 〇七五(四四二)五六六六

本門法華宗大本山
妙蓮寺

貫首 別所日山
執事長 佐野充照
役員一同

〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五(四五二)三三二七
FAX 〇七五(四五二)三三九七

多寶富士山
本山要法寺

貫首 丹治日遠
執事長 西尾弘道
執事 住友公亮
執事 柳下真敬

〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七二)三三九〇
FAX 〇七五(七七二)五九一四
HP honzanyoboji.jp

本門佛立宗本山
宥清寺

住職 高須日良
二十六世講有
執事長 山下日翠
事務局長 栢森良道

〒602-8336 京都市上京区二条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五一
電話 〇七五(四六三)四六二〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四六五一

京都八本山会

会本・本山 立本寺 貫首 上田日瑞
大本山 妙顕寺 貫首 及川日周
大本山 本閉寺 貫首 早川日章
本山 本法寺 貫首 瀬川日照
本山 妙覺寺 貫首 宮崎日嚴
本山 頂妙寺 貫首 田中日淳
本山 妙傳寺 貫首(代) 近藤日康
本山 本満寺

京都 法華門流懇話会

法華宗(真門流) 総本山本隆寺 貫主 上田日猷
顕本法華宗 総本山妙満寺 貫首 大川日仰
法華宗(本門流) 大本山本能寺 貫首 桃井日英
本門法華宗 大本山妙蓮寺 貫首 別所日山
日蓮本宗 本山要法寺 貫首 丹治日遠
本門佛立宗 本山宥清寺 講有 高須日良
顕本法華宗 本山寂光寺 貫首 大川日仰
法華宗(陣門流) 本山本禪寺 貫主 赤塚日辰

日蓮宗大本山
日蓮聖人出家得度の霊場
千光山 清澄寺

別當 齊藤日敬
執事長 宮崎雅宣

〒299-5505 千葉県鴨川市清澄三二二一
電話 〇四(七〇九四)〇五二五
FAX 〇四(七〇九四)〇五二七

宗祖御降誕霊場
日蓮宗大本山
誕生寺

貫首 石川日命
執事長 角濱監鏡

〒299-5501 千葉県鴨川市小湊一八三
電話 〇四(七〇九五)二六二一
FAX 〇四(七〇九五)二〇五五

日蓮宗霊跡本山比企谷
妙本寺

貫首 鈴木日敬

〒248-0007 神奈川県鎌倉市大町一―一五―一
電話 〇四六七(二二)〇七七七
FAX 〇四六七(二五)六九六七

日興上人御聖廟
日蓮宗大本山
富士山法華本門寺根源

貫首 旭日重
参与一同
執事長 鈴木春雄
役課一同

〒418-0112 静岡県富士宮市北山四九六五
電話 〇五四四(五八)一〇〇四
FAX 〇五四四(五八)〇三〇三

日蓮宗大本山
中山法華経寺

貫首 新井日湛
参与 植田観樹
松本慈恵
關 観亮
土田恵敬
松永慈弘

〒272-0813 千葉県市川市中山二―一〇―一
電話 〇四七(三三三)三三三三
FAX 〇四七(三三三)一七九六

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺

山主 山田日潮

〒166-0013 東京都杉並区堀之内三一四八―八
電話 〇三(三三三)六二四一
FAX 〇三(三三三)五〇〇七

日蓮門下お題目初唱之霊場
日蓮宗本山東身延
藻原寺

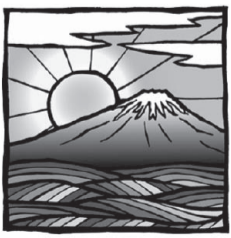
貫首 持田日勇
総務 増田寶泉
執事 富永一道
執事 中川貫泰

〒297-0026 千葉県茂原市茂原一―二〇―一
電話 〇四七五(二二)三一五三
FAX 〇四七五(二二)一一七三

徳川家康公報恩創建
日蓮宗由緒寺院
瑞輪寺

貫首 井上日修
執事長 稲荷泰雅

〒110-0001 東京都台東区谷中四―二―一五
電話 〇三(三八二)四三七三
FAX 〇三(三八二)七〇三三



門連時報

身延理事會開催さる

令和五年六月十三日(火)、日蓮宗本山身延山久遠寺で、「日蓮聖人門下連合会祖廟参詣・身延理事會」が開催され、全国日蓮聖人門下連合会の顧問・常任理事・理事・監査・大阪門下懇話会理事長等、二十六名が参加した。

京都日蓮聖人門下連合会事業開催

ア静岡へ移動し、午後六時三十分より懇親会を開催。和やかな雰囲気の中、出席者同士が親睦を深め、有意義なひと時を過ごした。

宗祖御降誕会

二月十六日(木) 京都市上京区日蓮宗本山本法寺にて、京都日蓮聖人門下連合会主催のもと、日蓮大聖人降誕会が執り行われ、寒さが厳しい中、檀信徒、関係者各聖約百人が参詣した。

法要に先立ち、本堂で法華宗陣門流本山本禅寺 赤塚日辰貫主による「人生の終わりを考える」と題した講話があった。赤塚貫主の優しいお声に檀信徒は引き込まれ、真剣な眼差しで聞いていた。日蓮聖人の「先臨終の事を習うて後に他事を習うべし」の御遺文を説明した後に、豊臣秀吉や明智光秀の娘や正岡子規の辞世の句を用いて、現代の私たちが最期を迎える時の心の在り方を説かれた。

午後二時三十分、田中忠紳理事長が座長となり、理事會が開催され、議題に沿って議事を進行。事務局より「令和四年度事業報告」、「令和四年度決算報告」について報告がなされた。決算報告では監査の遠藤文祥師より、監査報告がなされ、一同承認。次に、「令和五年度事業計画案」、「令和五年度予算案」を事務局より提案、一同承認。

引き続き、日蓮宗本山本法寺瀬川日照貫首大導師の下、降誕会が執り行われた。雅楽の音色が堂内を包み込む荘厳な雰囲気の中で、檀信徒は大音声でお題目を唱え日蓮聖人の御生誕をお祝した。

続いて、「京都日蓮聖人門下連合会活動報告」が小田和幸京都日蓮聖人門下連合会理事長より、「地方門下連合会活動に関する報告」が伊藤信城大阪日蓮聖人門下懇話会理事長よりそれぞれ報告された。

事務局より、「日蓮聖人観心本尊抄述作七五十年慶讃記念『渡結集』開催について詳細が説明され、一同承認。理事會終了後、ホテルアソシ

を過ごさなければならぬ」と挨拶された。

立教開宗会並日蓮聖人銅像撥造式

滋賀県大津市比叡山横川定光院において四月二十八日、京都日蓮聖人門下連合会・日蓮宗横川定光院護持顕彰会共催による立教開宗会並びに日蓮聖人銅像撥造式が日蓮宗本山立本寺上田日瑞貫首導師の下、執り行われた。

横川定光院は若き日の日蓮聖人がご修行された聖地。当日は晴れ渡る青空の下、法要に先立ち、法華宗本門流 法華宗青年伝道隊員の山地泰寛師による末法の今お題目の信仰の大切さを説いた法語が行われた。

その後、京都日蓮宗寺院婦人会による法華和讃が奉納され、引き続き法要では京都日蓮門下連合会各本山の貫首・貫主臨席の下、横川の地にお題目の音が響き渡った。

開宗会法要終了後には、銅像前に移動し、日蓮聖人銅像撥造式が執り行われた。令和六年に建立百年を迎えるこの銅像は、比叡山の厳しい風雪にも耐えてきたが、所々の損傷が激しくなり、この度修復にあたりお魂が抜かれた。

護持顕彰会阪田兼光会長は「この銅像の作者は立教開宗の霊場清澄寺の銅像と同じ作者であり、清澄寺と定光院の銅像の他現存する物が少なく、美術的にも優れた貴重な物です。必ず信仰の

対象として次世代に引き継がなければならぬ」と力強く挨拶された。

第五十八回夏季大学

令和五年八月二十六日(土)、京都市中京区のホテル本能寺に於いて、京都日蓮聖人門下連合会主催による第五十八回目となる夏季大学が、加盟本山貫首をはじめ寺院各聖、僧俗約九十名の参加のもと開催された。

今年度は身延山大学仏教学部 仏教学科教授木村中一師による第一講演が「日蓮聖人の誠心(みこころ)にふれる」という講題のもと、日蓮聖人の御生涯や御遺文に触れながら弟子・檀越との交流を紐解き、聖人の御心の優しさについて説明された。

また第二講演として京扇子製造卸株式会社大西常商店・四代目若女将取締役社長 大西里枝氏を招き、扇子の文化や歴史、扇子の使い方などについて講演された。

今回初めて参加した方からは「どちらの講演も非常に興味深かった。また来年も参加したい」との声があり、参加者からは好評だった。

大阪日蓮聖人門下懇話会事業開催

第二十五回 本山由緒寺院参拜日帰りバスツアー

三月二十八日(火)、僧俗六十名が法華宗本門流・大本山本興寺(尼崎市)を参拝。当日は、大本山本興寺本堂にて小西日蓮親下御導師の元、一座厳修。その後、日蓮親下による本山沿革についての講話を頂いた。場所を国指定重要文化財である方丈に移し、障壁画を見学。宝物殿にて日蓮聖人御真筆本尊を拝し、信長等武將の禁制等を鑑賞。

大本山本興寺は尼崎市井に在りながらも落ち着いた雰囲気を感じられる寺院であり、参加者は神聖な空気に触れながら南無

妙法蓮華經の信仰が深まる感銘のバスツアーを満喫した。

第三十六回 総会

七月四日(火) 午後五時より二十二人の出席者を得て開催。全議案は全会一致をもって承認。可決された。総会後、日蓮宗恵光寺・福島正堯師による「宗教法人法第八十四条項解釈について」の講演を頂き、その後、感染症対策を十分に図った上、懇親会も開催。懇親会では講演内容への質問や補足説明も行われ、和やかながらも有意義な時間となった。

第三十一回 報恩合同御会式

十一月十二日(日) 午後二時より、法華宗本門流谷町妙法寺において修行予定。法要後は、日蓮宗日聖寺・藤本静潤師による高座説教を予定。僧俗参集の上で賑々しく御会式を修行したい。

第三十四回 研修会

十二月中旬に開催予定。講師は法華宗本門流「興隆学林専門学校」講師・三軒家妙法寺住職・野坂教翁師。講題は未定であるが、師には量子力学を元に宇宙を論じて頂き、そこから見えてきた法華經の世界観を披見頂こうと考えている。今回の研修を通じて、法華經世界への理解に新たな視点を加えることが出来ればと考える。

定例理事・顧問・相談役会

七月十八日(火) 午後六時より十一名の出席者を得て開催。今年度の行事内容の詳細について審議し、忌憚ない意見を交わす併せて懇親会も開く。和気あいあいとした雰囲気の中、参加者は会設立当初の先師の思いを共有し、一人ひとりが四海帰妙への思いを改めて確認できた時間となった。



法華三部經大講義

渡邊寶陽 著
監修 財団法人「法華会」
編集・発行 (株)日蓮宗新聞社

本刊行は小林一郎・久保田正文両先生の『法華經大講座』の精神を引き継ぎ、日蓮聖人が読まれた立場で解説した法華經全巻と開經・結經の要点を概説しています。初学の読者にも容易に理解出来るよう配慮した、やさしい「法華經理解の入門書」です。

- 【第1巻】202頁 開經から法華經へ 開經『無量義經』
 - 【第2巻】518頁 『妙法蓮華經』 序品第一～ 信解品第四
 - 【第3巻】446頁 藥草喻品第五～ 安樂行品第十四
 - 【第4巻】455頁 從地涌出品第十五～ 普賢菩薩勸発品第二十八
 - 【第5巻】165頁+全文検索用USB 結經『仏説觀普賢菩薩行法經』 文字検索対応PDFデータ (索引に替えて)
- ※引用經文(訓読)校訂協力 佐世保本興寺 松本玄經・岩永泰賢&普賢会・九州教化センター各聖



五巻には全索引に替えて全文PDFを収納したUSBをセット

A5判 ハードカバー・ケース入り ※セット内容イメージ

全5巻セット 20,900円(税込・送料別)



各派・教団・短信

法華宗(本門流)

令和五年 二月十六日

宗門主催宗祖日蓮大聖人聖誕八〇〇年記念報恩法要(於:大本山本能寺)。

三月三日 興隆学林専門学校令和四年度卒業式を対面にて開催。宗学科七名、宗学研究科三名が卒業。

三月十日 東日本大震災犠牲者十三回忌追悼慰霊・復興祈願法要(於:大本山鷲山寺)。

三月十五日 第三十三回法華宗教学研究発表大会。コロナ禍を受けて四年ぶりの開催(於:キャンパスプラザ京都)。

四月五日 大本山光長寺にて第八十世久保木日將院下晋山式。

四月十日 興隆学林専門学校令和五年度入学式を開催。宗学科一名、宗学研究科七名が入学。

四月十一日 千鳥ヶ淵戦没者慰霊法要。

五月二十四日(二十五日)第七十八次定期宗会を四年ぶりに法華宗宗務院にて開催。

五月三十日(三十一日)令和五年度全国宗務所長会開催(於:法華宗宗務院)。

六月六日(七日)法華宗青年会連絡協議会開催(幹事:東北教区青年会)。

六月二十八日 当宗が当番となり、第八回法華宗連絡協議会を開催(於:大本山本能寺)。

八月十三日 第四百四十一代法華宗管長に大本山鷲山寺御貫首、佐藤日賢院下が就任。

九月一日 大本山鷲山寺御貫

首、佐藤日賢院下第四百四十一代法華宗管長推戴式を挙行(於:大本山鷲山寺)。

九月十三日(十五日)日蓮聖人門下連合会主催、宗祖日蓮聖人観心本尊抄述作七五〇年慶讃佐渡結集に併せ、僧俗五〇余名が団参。

九月二十五日(二十九日)第十八回教師養成特別講習会第一期開講。七年ぶりの開催(於:大本山光長寺・宗務院・鷲山寺)。(芹澤寛隆)

頭本法華宗

三月九日、十日の両日、オンラインにおいて、第七十八次定期宗会が開催された。令和三年度宗務事業報告及び決算、令和五年度事業計画及び予算案が承認された。

五月三日(七日)の五日間にわたり、総本山妙満寺において、妙塔学林(本科)が開講された。

五月二十日(二十一日)の二日間において、京都総本山妙満寺において、大川日仰院下大導師のもと、春季報恩大法要が厳修された。また、河野時巧宗務総長導師のもと「安珍清姫の鐘」鐘供養が奉行された。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全国檀信徒の団体参拝や全国僧員の出仕等は縮小し、インターネットによるリアルタイム動画配信(リモート参拝)を実施した。

六月十六日、オンラインにおいて第一回全国布教研修会が開催された。特命布教師・吉本栄和師より「現代を考える不況(墓地、葬儀、UGB)、大災害への対応」と題する講義が行われた。

六月十八日、オンラインにおいて、教学研究所公開研究例会が開催された。見玉常優師(千葉・東福寺)による「天妙国寺開山天目師について」と題する研究発表、河野時巧師(千葉・法導寺)による「初期什門動行作法の一考察」と題する研究発表、藤崎裕孝師(千葉・大経寺内)による「常不軽菩薩と折伏」と題する研究発表が行われた。最後に講演として、駒澤大学仏教学部教授・吉村誠先生による「玄奘三蔵のシルクロード―唯識思想

の伝来―」と題する講義が行われた。

法華宗(陣門流)

(多門正崇)

一月二十三日、第三百三十八次臨時宗会が宗務院にて開催され、西山総長が再任された。

二月三日、総本山本成寺(新潟県三条市)で「節分大祈願会」が、本成寺貫首・門谷日悠院下導師により厳修された。午後一時と三時の祈願終了後には恒例の鬼踊り、豆まきが行われた。

三月九日(十日)、第三百三十九次定期宗会が宗務院にて開催された。

五月一日、宗務所長会が宗務院にて開催された。

五月十二日、霊跡別院蓮着寺(静岡県伊東市)にて「伊豆法難会」が、中野日仁山主導師により厳修された。

五月十三日(六月二十一日)までの四十日間、「法華宗学林」が開講され、寺院徒が参加した。学林生達は毎日教学研究・練経・浄行等に励み、行学二道に精進した。

五月十九日、会計監査会が宗務院にて開催された。

五月三十日、布教研究所員会が宗務院にて開催された。

七月二日、雅楽練習会が宗務院で開催された。

八月二十九日、宗法審議委員会が宗務院にて開催された。

九月四日(五日)、中央行学講習会が姫路にて開催された。

本門佛立宗

(佐古弘純)

三月に開催された宗会で、日本と台湾の親善交流を図る団体「一般財団法人台湾協会」理事長、清水一也氏と専務理事、八田修一氏が出席された。本門佛立宗は50年以上にわたって「台湾日本人物故者慰霊祭」を毎年勤めている。これに対し台湾協会から、「交礼台湾の会」で、慰霊祭に対する感謝状を贈呈する

予定となった。それに先立ち、理事長から講有上人をはじめ、本門佛立宗に感謝の意が述べられた。

三月二十八日、佛立教育専門学校と佛立研究所共催の「第32回研究発表大会」が開催され、研究所副所長・局日遙師より「高祖御遺跡調査経過報告」とともに今回の特別講演の講師・中尾堯先生の紹介が行われた。

高祖日蓮大土ご降誕800年慶讃本山大法要、が4月、7月、10と3回に分けてにそれぞれ、全国から約1万人が参詣され、盛大に無厳修された。

「佛立防災アクションデー」が開催された。災害に備え、小さなことからでもできることから取り組んで、防災へのアクションデーが行われた。

三月二十四日、本隆寺に於いて、春季彼岸法要奉修。

三月二十七日(二十九日)、本隆寺に於いて、僧風林・鍊成道場開講。

四月七日(二十三日)、本隆寺に於いて、春季学林開講。

四月十一日(十三日)、本隆寺に於いて、春季大法会厳修。

五月二十九日(三十日)、本隆寺に於いて、研修会開催。

五月三十日、本隆寺に於いて、真門教学講習会開催。

六月六日、第三教区主催「教学研究会」開催。

六月十日、第二教区主催「檀信徒研修会」開催。

八月十六日、本隆寺に於いて、孟蘭盆会法要奉修。

八月二十一日(二十七日)、本隆寺に於いて、夏期講習会開催。

九月二十六日、本隆寺に於いて、秋季彼岸法要奉修。

国柱会

(藤井光行)

令和五年四月一日、月旦大因禱。八日、釈尊降誕会慶讃大法要。中央連合協議会蓮華サークル開催。十六日、妙宗大靈廟例月供養会。十七日、恩師忌。例月供養会。二十日、日蓮聖人門下連合会常任理事会(於:日蓮宗宗務院)に、森山常任理事出席。二十七日、身延登詣団先発隊出向。二十八日、立正会慶讃法要。第九十回身延登詣団二十九日まで開催。

五月一日、月旦大因禱。十二日、伊豆法難会慶讃法要。十七日、恩師忌。賽主・職員常勤給仕。二十一日、妙宗大靈廟例月供養会。

六月一日、月旦大因禱。二日、門連佐渡結集企画会議(オンライン)に森山編集委員出席。十三日、門連大祖廟参詣並びに身延理事会および身延山開創七五〇年慶讃大法要第一座現代音楽法要(於:身延山久遠寺)に、賽主・森山常任理事出席。十七日、恩師忌。賽主・職員常勤給仕。十八日、妙宗大靈廟例月供養会。二十一日、申孝園ロータススイラ消防訓練。

七月一日、月旦大因禱。三日、門連編集委員会及び佐渡結集企画会議(於:日蓮宗宗務院)に森山・的場委員出席。八日、顕正会慶讃法要。中央連合協議会申孝園清掃奉仕。十五日、妙宗大靈廟孟蘭盆開頭大供養会。十六日、宣正会慶讃法要。中央連合協議会蓮華サークル開催。十七日、恩師忌。賽主・職員常勤給仕。三十日、明治天皇祭。賽主明治神宮参拝。(森山真治)

京都門下連合会

令和五年度行事

一月二十七日(金) 新年理事会(本能寺大宝殿) 今年度会長上田日瑞院下、副会長桃井日英院下、理事長橋本一妙師、副理事長佐藤泰慎師。

二月十六日(木) 総会(日蓮宗本山本法寺) 役員確認・行事決算報告・新年度行事予算決議。

同日 御降誕会(日蓮宗本山本法寺) 導師本山本法寺貫首瀬川日照院下、講師法華宗陣門流本山本禪寺貫主赤塚辰院下。

三月九日(木) 理事会(日蓮宗宗務所) 立教開宗会の件夏季大学の件等。

四月二十八日(金) 立教開宗会(比叡山横川定光院) 導師立本寺貫首上田日瑞院下。講師法華宗本門流法華宗青年伝道隊員山地泰寛師。

六月九日(金) 理事会(日蓮宗宗務所) 人事変更の件(理事長小田和幸師就任等)、夏季大学の件、御会式の件等。

六月二十二日(木) 門下本山会主伴会 当番法華宗本門流大本山本能寺(京都ホテルオークラ)。

六月十三日(火) 全門連身延理事会(身延山久遠寺) 会長、理事長等出席。

八月二十六日(土) 夏季大学(ホテル本能寺B一階) 講師上田日瑞院下(本山立本寺貫首) 木村

中一師(身延山大学教授) 大西里枝氏(株大西商店社長) 同日 理事会(同会場) 御会式の件。

十月六日(金) 御会式奉行委員会(日蓮宗本山妙満寺) 御会式準備、打合せ。

十月七日(土) 御会式(日蓮宗本山妙満寺) 導師妙傳寺貫首近藤日康院下、講師法華宗真門流本隆寺貫主上田日瑞院下。

十一月十四日(火) 全門連京都理事会(日蓮宗本山妙満寺)。

十二月二十一日(木) 理事会(ホテル本能寺) 行事報告、会計報告の件。

十二月二十二日(金) 門下本山会主伴会 当番日蓮宗本山立本寺。

十二月二十五日(月) 会計監査(日蓮宗宗務所) (永岡龍明)

「千鳥が淵養並びに世界立正平和祈願法要」が八月十五日、千鳥が淵戦没者墓苑で田中恵紳宗務総長の名代・柳下俊明伝道局長を導師に、東京四管区の宗務所長が副導師に営まれた。

身延山久遠寺は六月十二日から十八日まで開創七五〇年慶讃大法要並びに記念行事を行った。(大澤宏明)

人事(事務局への連絡日を含む)

年月日	氏名	宗派	門連役職
令和五・二・二八	難波壽顯	日蓮宗	門連役職 就任 退任
令和五・五・一	橋本一妙	京門連	常任理事 退任
令和五・五・二	小田和幸	京門連	常任理事 就任
令和五・六・二一	門谷日悠	法華宗(陣門流)	顧問 退任
令和五・七・七	鈴木日慧	法華宗(本門流)	顧問 就任
令和五・八・一三	福島泰樹	法華宗(本門流)	監査 退任
令和五・八・一三	桃井日英	法華宗(本門流)	顧問 退任
令和五・八・三〇	見矢龍輝	日蓮宗	幹事 就任
令和五・九・二九	蓮池光洋	法華宗(本門流)	監査 就任

御遷化

年月日	氏名	宗派	門連役職
令和五・九・一三	吉田行典	日本山妙法寺	前顧問